



# 2024年12月期 第1四半期決算説明資料

株式会社 エージェント・インシュアランス・グループ  
(証券コード：5836)

2024年5月

# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 2024年12月期 第1四半期決算概要
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 Appendix

保険の「あんしん」は人で完成する。

✔ 企業理念

お客様の利益創出に最善を尽くす  
— Doing Our Best On Your Behalf —

国内事業

### 保険代理店

全国に73拠点を構え、個人及び法人に向けて、主に損害保険・生命保険を販売する保険代理店。



※2024年5月15日現在

海外事業

### 海外保険ブローカー

世界最大の米国保険マーケットにおいて4拠点を構え、保険ブローカー業を展開。

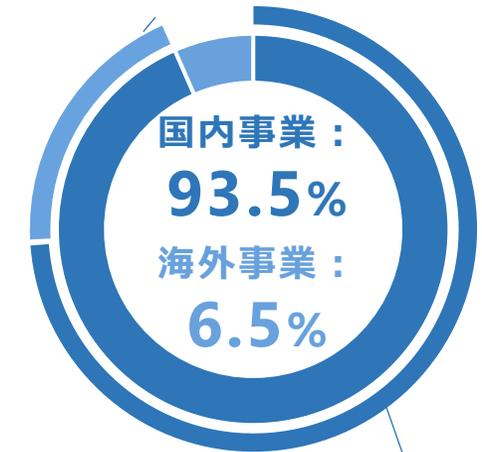


※2024年5月15日現在

### 営業収益比率

#### 国内生命保険

26.5%



#### 国内損害保険

73.5%

※2023年12月期

保険代理店には「**専業代理店**」と「**兼業代理店**」があり、さらに「**専属代理店**」と「**乗合代理店**」に区分されます。



## 損害保険業界における 専業代理店と兼業代理店の割合



損害保険においては兼業代理店の方が多い

新しいリスク・複雑化するリスクに備えるため  
**よりプロフェッショナルな代理店が求められる時代に**

出所：損害保険協会 専業・副業別、法人・個人別、専業・乗合別 代理店数、取扱保険料及び募集従事者数の推移（2022年度末）を基に当社算出

様々な背景が理由となり、保険代理店の集約・統廃合が進んでいます。

	1996年	2005年	2016年～現在
社会情勢 業法改正	金融ビッグバン 保険業法改正	不払い問題 不適切募集	顧客本位の業務運営 保険業法改正
保険会社	商品自由化・複雑化 生命保険・損害保険の 相互参入	商品・保険金支払 体制の見直し	代理店販売網の強化・ 再編（集約・統廃合）
保険代理店	代理店の販売力向上の 必要性が高まる	募集品質の向上の 必要性が高まる	お客様の意向確認、 比較推奨販売等の更なる 体制整備強化が必要

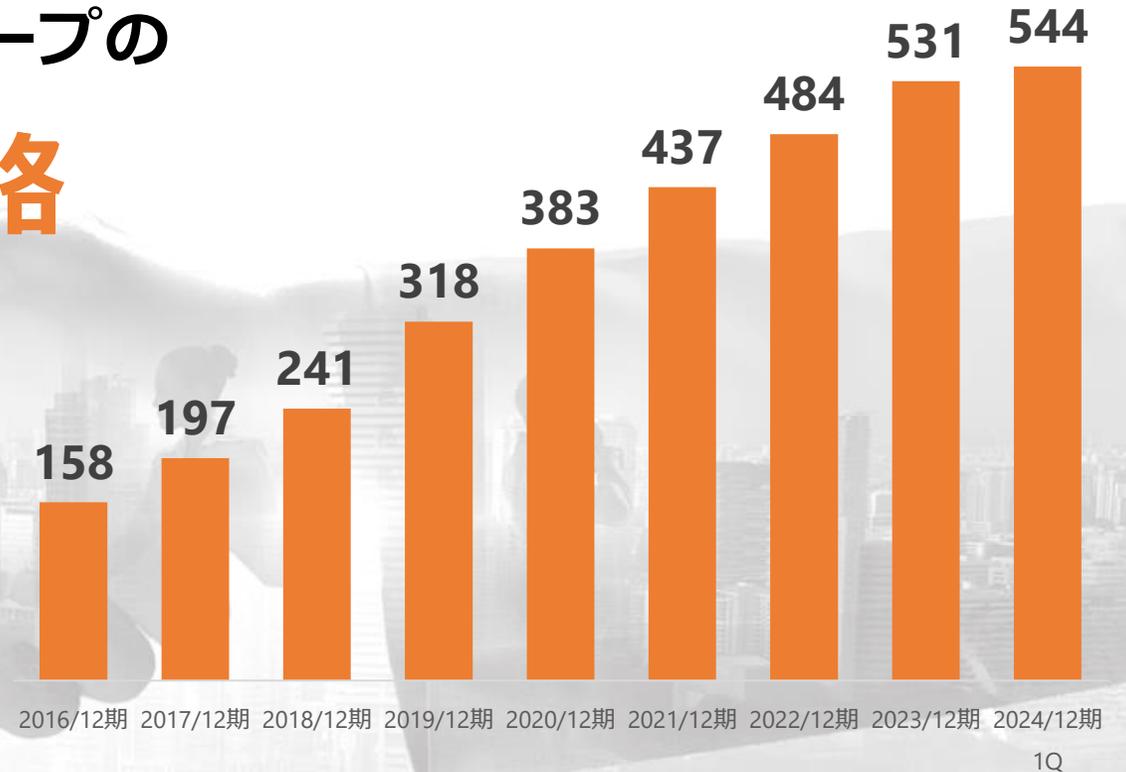
||  
**リソース不足により  
 中小保険代理店単独での対応は困難**

当社は統廃合が進む保険代理店業界において、積極的なM&A及び事業承継を行っています。保険代理店で働く方々の事業継続をサポートし、その先にいるお客様が「あんしん」できる環境を創出しています。

## エージェント・インシュアランス・グループの M&A及び事業承継戦略

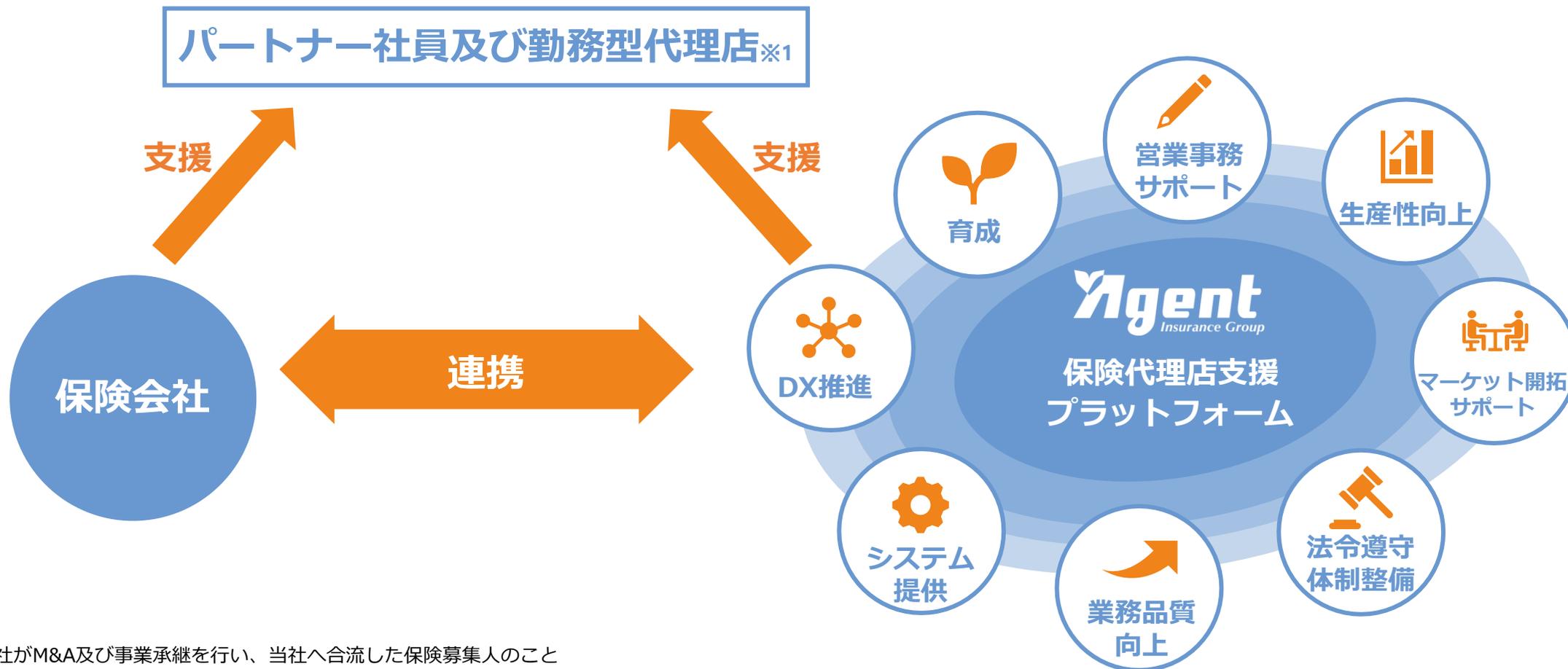
保険代理店の成長や発展を促進

合流代理店件数 **544件**※1



# 保険代理店支援プラットフォームの構築

保険業法や各保険会社の規則に則った営業活動の継続をサポートし、合流したパートナー社員及び勤務型代理店が「あんしん」して働ける環境を創出しております。



※1：当社がM&A及び事業承継を行い、当社へ合流した保険募集人のこと

当社は各保険会社から高い評価を受けております。その結果、保険代理店の事業承継案件や、事業会社・金融機関との提携案件を保険会社等より多数紹介いただき、保険代理店支援プラットフォームの基盤が構築できております。

### 東京海上日動火災保険(株)



**TOP QUALITY代理店  
ロイヤルエクセレント認定**



**専業代理店年間優績表彰制度  
26年連続入賞・通算26回**



**保険代理店支援プラットフォームの基盤を構築**

**保険会社から当社が受け取る代理店手数料の増加に直結**

東京海上日動火災保険株式会社の認定制度は2018年度より刷新されており、当社は、最高峰のランクである「ロイヤルエクセレント」の認定を初年度より継続して受けています。「ロイヤルエクセレント」は、東京海上日動火災保険の商品を取り扱う44,761店中わずか36店（0.08%、専業代理店9,946店中の場合は0.36%）の代理店のみが受けることのできる認定です。（2023年7月時点）

# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 **2024年12月期 第1四半期決算概要**
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 Appendix

## 営業収益

900百万円

+13.4%  
(前年同期比)

## 営業利益

22百万円

—

## 取扱保険料

391億円

+2.6%  
(2023年12月末比)

## お客様の数

14,048社  
144,854人

+1.6%  
(2023年12月末比)

- 国内事業は、ビジネスモデルの根幹であるM&A及び事業承継の取組みが促進され、損害保険の売上が順調に推移。また、既存のお客様へのクロスセルにより、生命保険の販売も促進。
- 海外事業も、損害保険を中心に売上が好調に推移。
- 1Qは13件のM&A及び事業承継を行い、お客様の数は、法人が14,048社、個人が144,854人。

## 2024年12月期 1Q損益計算書サマリー

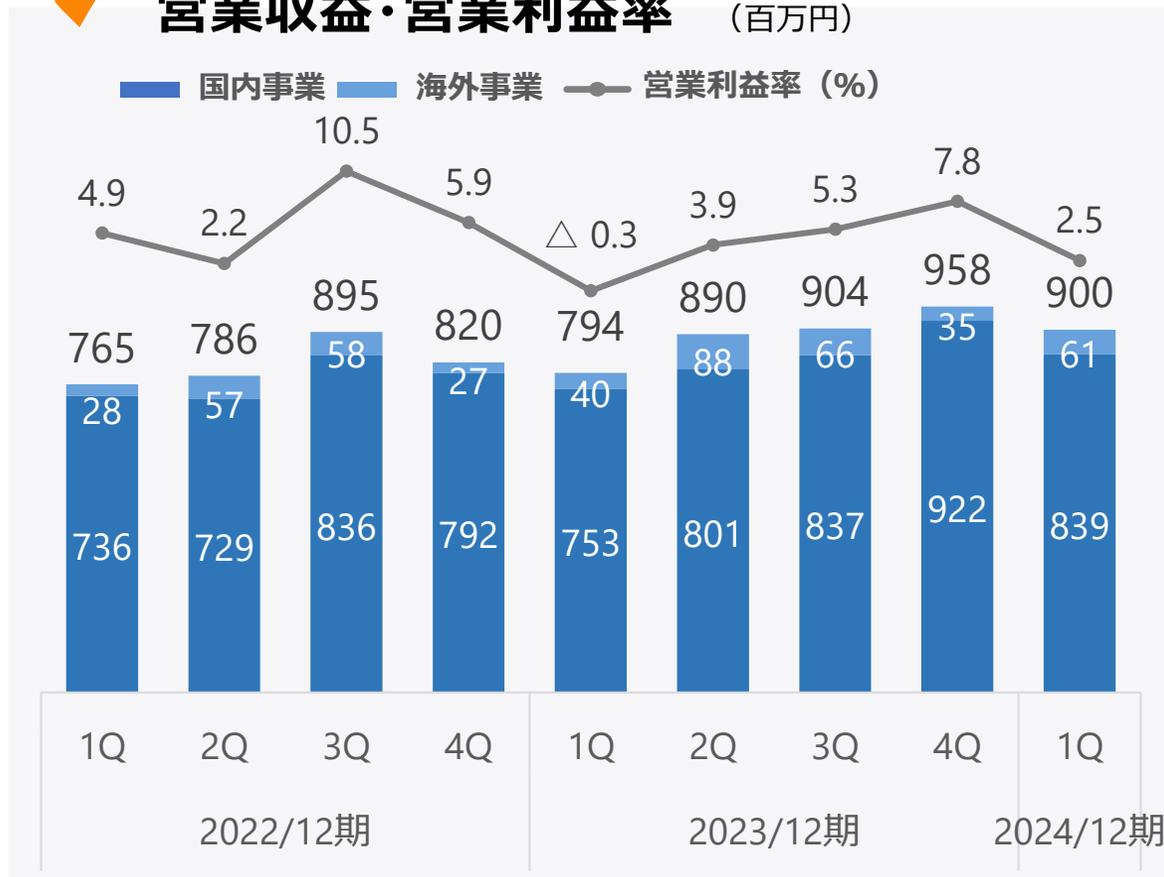
国内事業において、ビジネスモデルの根幹であるM&A及び事業承継の取組みが順調に推移し、損害保険の売上が順調に推移。また、既存のお客様へのクロスセルにより、生命保険の販売が促進。海外事業は、損害保険を中心に売上が好調に推移したものの、人員増加に伴い人件費は増加。

(百万円)	2023/12期 1Q		2024/12期 1Q		
	実績	営業収益比 (%)	実績	営業収益比 (%)	増減率 (%)
営業収益	794	100.0	900	100.0	+13.4
国内事業	753	-	839	-	+11.3
海外事業	40	-	61	-	+52.0
営業費用	796	100.3	878	97.5	+10.3
人件費	359	-	400	-	+11.3
管理費	436	-	478	-	+9.5
営業利益	△2	△0.3	22	2.5	-
国内事業	3	-	26	-	+677.5
海外事業	△5	-	△3	-	-
経常利益	△2	△0.3	21	2.4	-
当期純利益	△3	△0.4	9	1.0	-

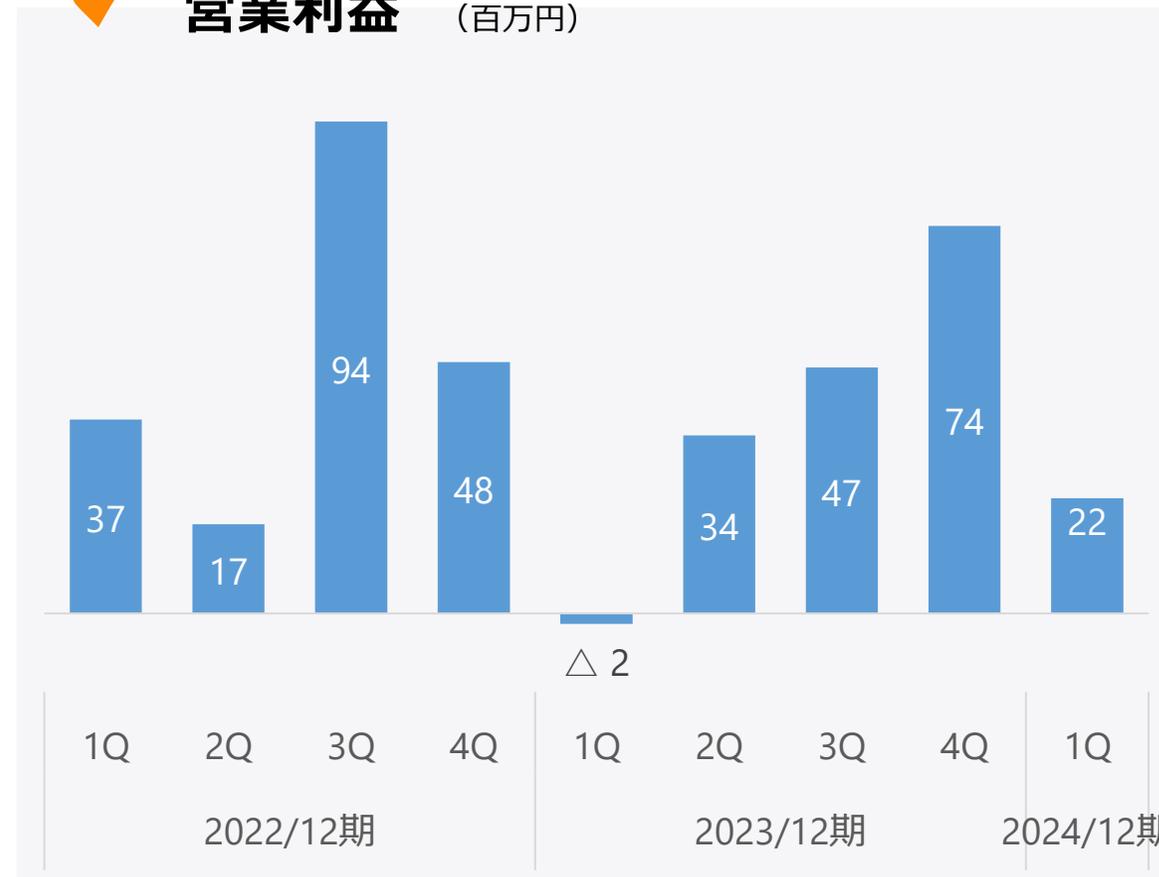
## 連結業績推移（四半期）

1Qの営業利益率は2.5%。引き続き、損害保険（ストック収益）と生命保険（フロー収益）の積極的なアップセル・クロスセルを通じて、さらなる営業利益拡大、営業利益率向上を狙う。

### 営業収益・営業利益率（百万円）



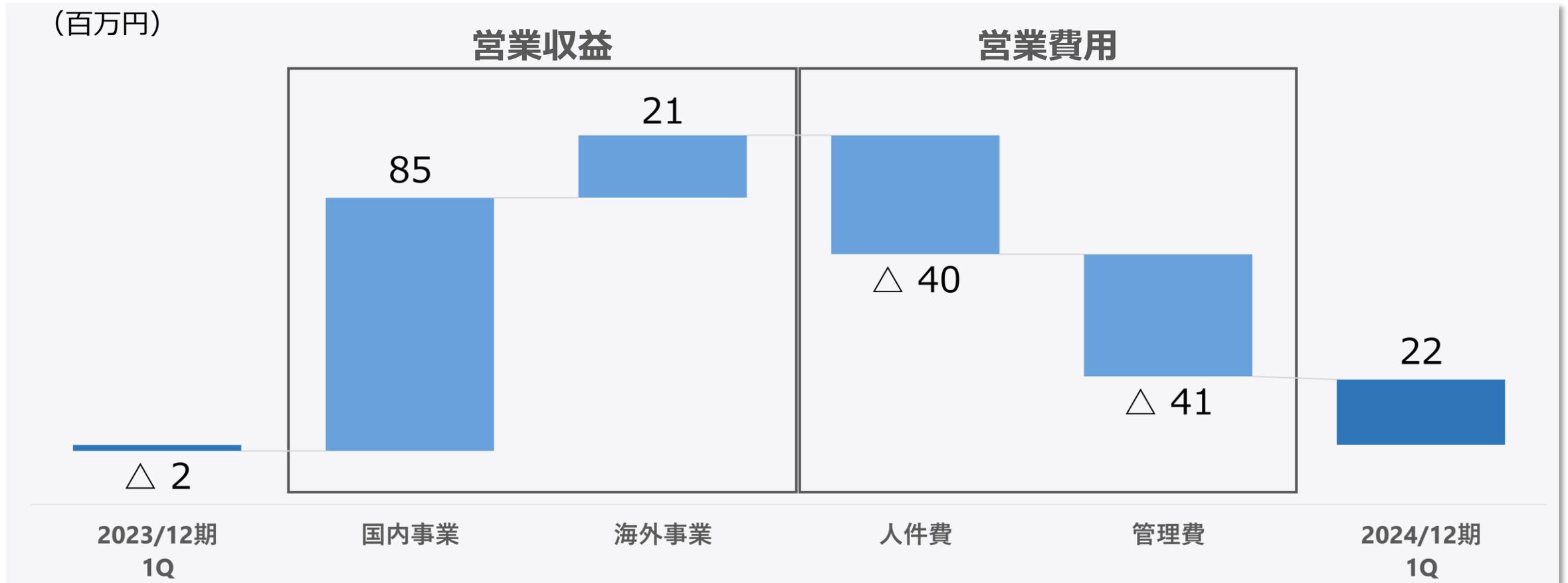
### 営業利益（百万円）



## 営業利益増減要因

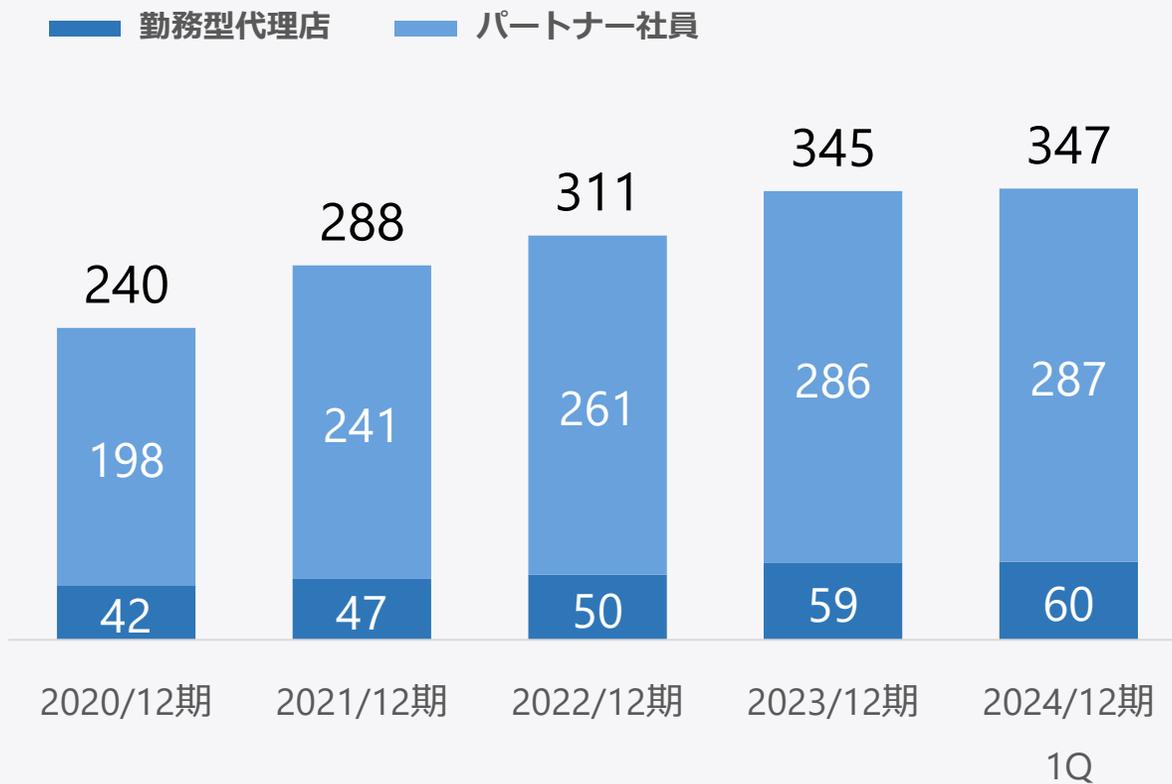
国内事業、海外事業ともに、営業収益が増加。

M&A及び事業承継の取組みが順調に推移したこと、また、生命保険のクロスセルが順調であり、営業利益も増加。



2024年12月期 1Qは13件のM&A及び事業承継を実施し、2名のパートナー社員及び勤務型代理店が増加。当社に在籍しているパートナー社員及び勤務型代理店の多くが損害保険の募集人であり、合流を通じて当社の損害保険のマーケットは拡大。

## パートナー社員数・勤務型代理店数 (人)



パートナー社員

当社との間で雇用関係にあり、当社のコア社員（正社員、嘱託社員、パートタイマー社員）と同様に当社の取扱商品（生命保険商品・損害保険商品・少額短期保険商品）を取扱うことができる



勤務型代理店

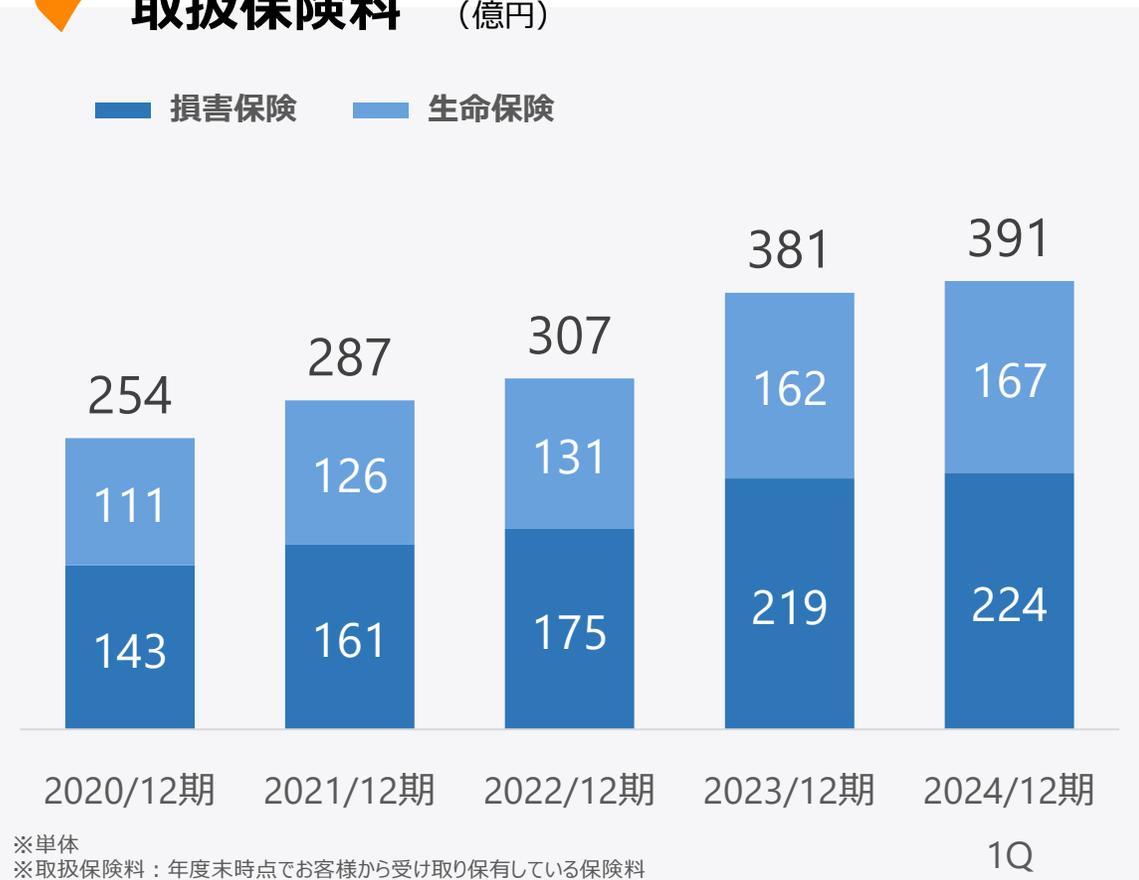
募集人1名の個人代理店としての登録であるため、生命保険は複数保険会社の取扱いはできず1社の商品のみ、損害保険は保険会社と委託契約書を結ぶことで複数社の商品を取り扱うことができる



M&A及び事業承継によるマーケット拡大（お客様の数の増加）に加え、  
 今後はアップセル・クロスセルを通じた更なる事業規模拡大（取扱保険料の増加）を実現。

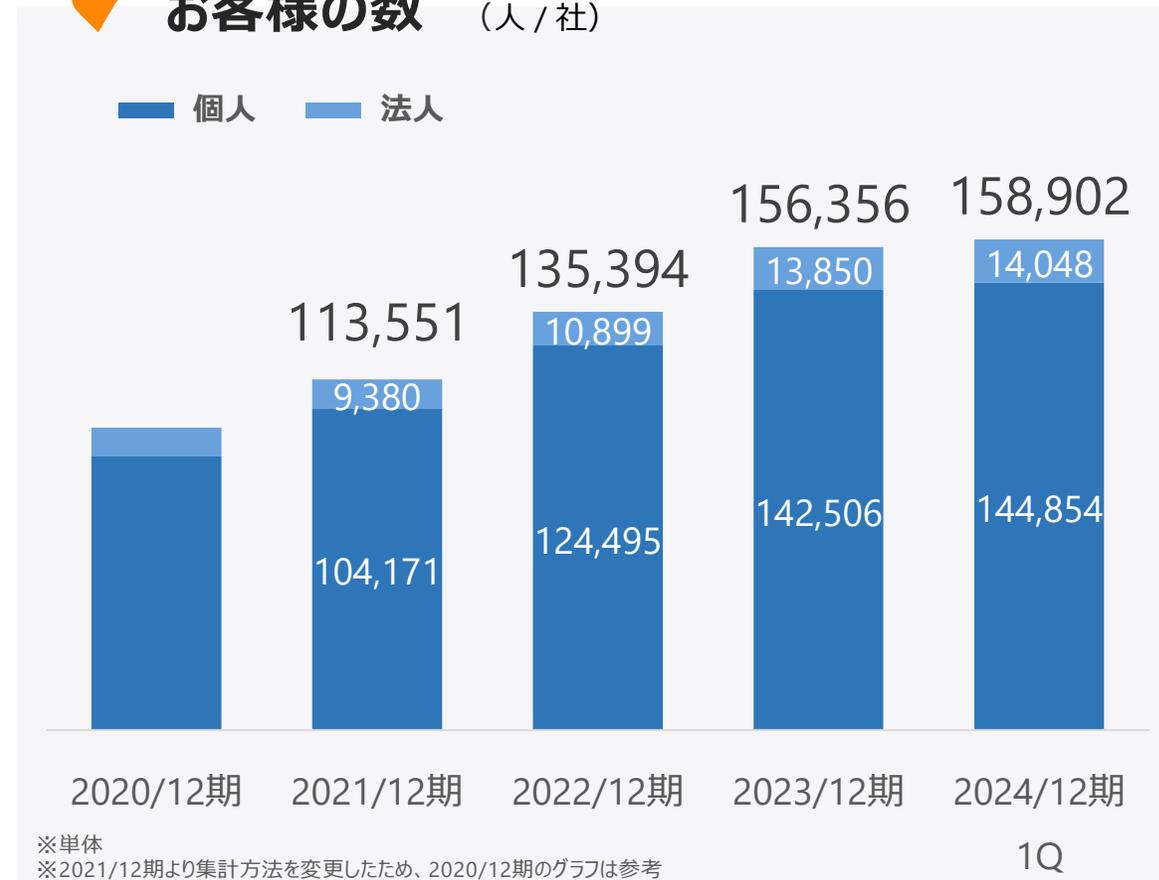
## 取扱保険料 (億円)

■ 損害保険 ■ 生命保険



## お客様の数 (人/社)

■ 個人 ■ 法人



## 2024年12月期 1Q 貸借対照表サマリー

1Qは、自己資本比率が56.4%で着地（前連結会計年度末は56.3%）。

(百万円)	2023/12期	2024/12期 1Q	増減額	備考
流動資産	1,592	<b>1,616</b>	+23	主に現金及び預金の増加34,704千円によるもの
固定資産	555	<b>564</b>	+8	主に顧客関連資産の増加3,298千円、敷金及び保証金の増加5,189千円によるもの
資産合計	2,148	<b>2,180</b>	+32	—
流動負債	688	<b>720</b>	+31	主に営業未払金の増加19,292千円、預り金の増加16,194千円によるもの
固定負債	249	<b>230</b>	△19	主に長期借入金の減少18,573千円によるもの
負債合計	938	<b>950</b>	+12	—
(有利子負債合計)	341	<b>322</b>	△18	—
純資産	1,209	<b>1,229</b>	+19	主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加9,345千円増加、為替換算調整勘定の増加10,433千円によるもの
負債・純資産合計	2,148	<b>2,180</b>	+32	—

# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 2024年12月期 第1四半期決算概要
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 Appendix

2024年4月1日付でファイナンシャル・ジャパン株式会社の株式取得手続きを完了し、同社を子会社化いたしました。同社の業績は、2024年12月期第3四半期から当社連結業績への取り込みを予定しております。

## ファイナンシャル・ジャパン株式会社とは



### ファイナンシャル・ジャパン株式会社

所在地	東京都中央区新川1-28-23 東京ダイヤビルディング5号館14階
代表者	代表取締役社長 池田 剛 / 名誉会長(Founder) 小坂 直之
事業内容	保険募集業務、銀行代理業務、金融仲介業務 各種コンサルティング業
資本金	30百万円
設立年	2013年2月
大株主及び 持株比率	株式会社エージェント・インシュアランス・グループ：100%

### 数字で見るファイナンシャル・ジャパン

従業員数

853名

取扱保険料

904億円

法人

8,524社

お客様の数

個人

142,420人

※2024年4月1日現在

前述の株式取得（子会社化）完了に伴い、当社は生命保険・損害保険・海外保険ブローカーの3つの主軸を有する企業グループとなりました。シナジー効果を最大限に発揮して、マーケットの更なる拡大・収益力の向上を図ってまいります。



2023年8月14日付でお知らせしておりました、金融商品仲介業への参入について検討を重ねた結果、この度子会社となりましたファイナンシャル・ジャパン株式会社の既存事業を通じて参入する方針に転換いたしました。お客様が「あんしん」して生活できるサービスを提供できるよう、今後も事業基盤を強化してまいります。



保険プラスαを提供する  
**ハイブリッドアドバイザー**



保険会社との更なる関係強化を図りながら、マーケット拡大に向けた保険代理店のM&A及び事業承継を推進。  
 ファイナンシャル・ジャパン株式会社の株式取得に伴い、2024年12月期の第3四半期以降の連結が変動する見通し。

(百万円)	2023/12期 実績	2024/12期			
		通期予想	対前年増減率 (%)	1Q実績	進捗率 (%)
営業収益	3,547	<b>7,763</b>	+118.8	900	11.6
国内事業	3,315	<b>7,498</b>	+126.2	839	11.2
海外事業	232	<b>265</b>	+14.3	61	23.3
営業費用	3,392	<b>7,488</b>	+120.7	878	11.7
人件費	1,503	<b>3,059</b>	+103.5	400	13.1
管理費	1,889	<b>4,429</b>	+134.5	478	10.8
営業利益	154	<b>274</b>	+77.1	22	8.1
国内事業	112	<b>261</b>	+132.2	26	10.0
海外事業	42	<b>13</b>	△69.3	△3	-
経常利益	154	<b>261</b>	+69.4	21	8.3
当期純利益	102	<b>152</b>	+49.2	9	6.1

# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 2024年12月期 第1四半期決算概要
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 Appendix

# 1

## M&A及び事業承継戦略

- ▶ 新たなマーケット拡大
- ▶ アップセル・クロスセルの推進



# 2

## テクノロジーの活用

- ▶ 業務効率化に向けたテクノロジー活用
- ▶ 従来のサービスの利便性向上



# 3

## 海外事業の拡大

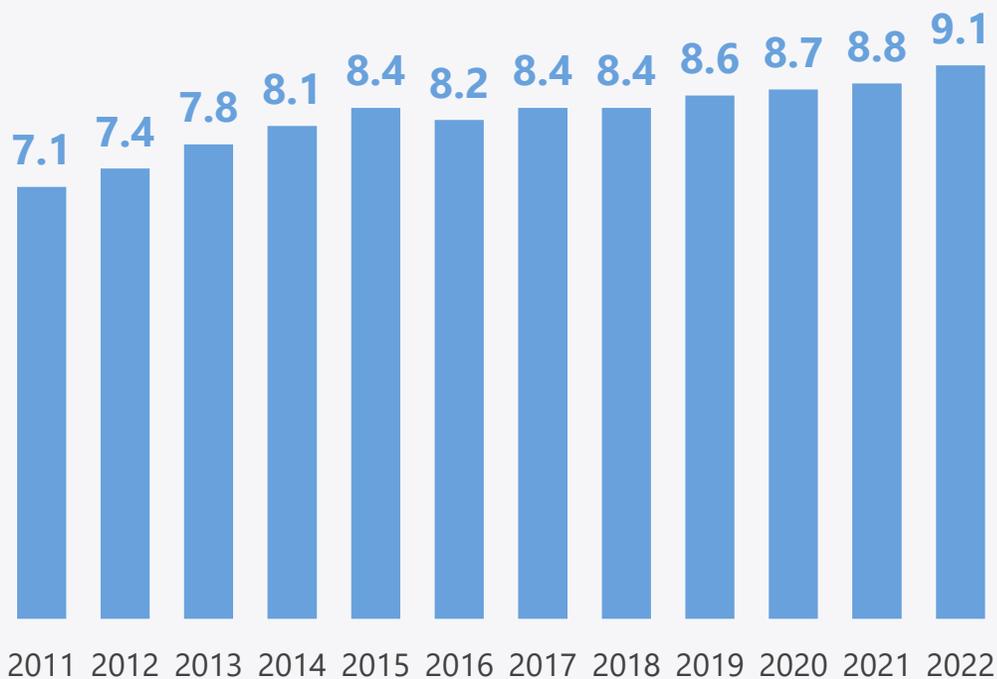
- ▶ 米国ローカルマーケットの開拓
- ▶ M&A及び事業承継の推進



日本の損害保険市場規模は毎年増加しており、2023年3月時点で9.1兆円、拡大トレンドを継続しています。生命保険業界は保険料等収入ベースで30兆円台を維持しており、大きな市場規模を有しています。

## 損害保険業界市場規模（正味保険料ベース）

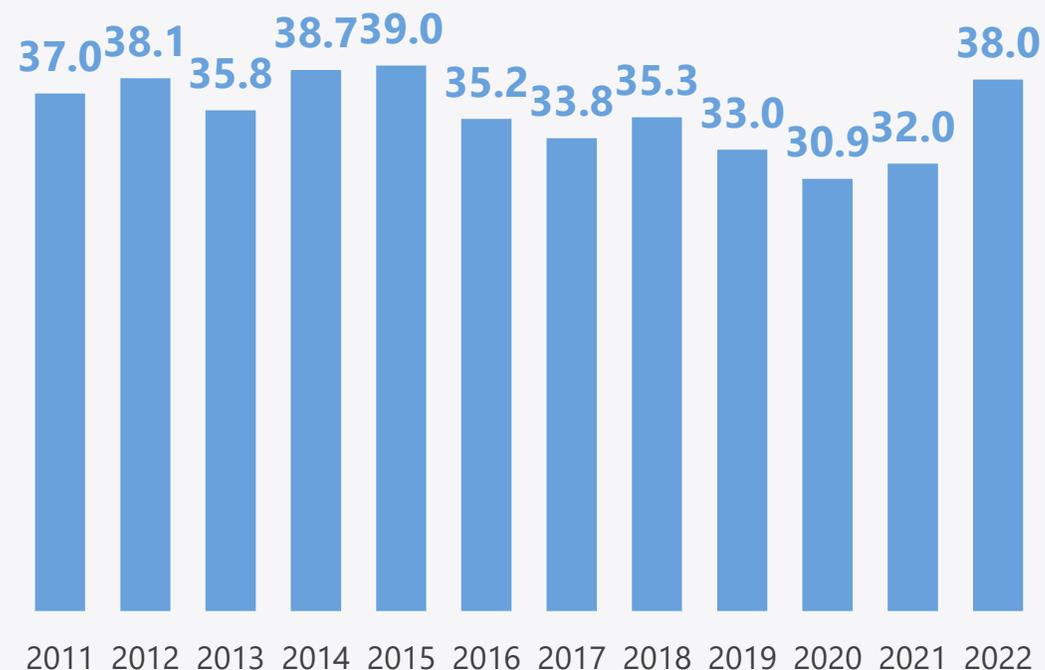
(兆円)



出所：日本損害保険協会 2022年度種目別統計表を基に当社作成

## 生命保険業界市場規模（保険料等収入ベース）

(兆円)

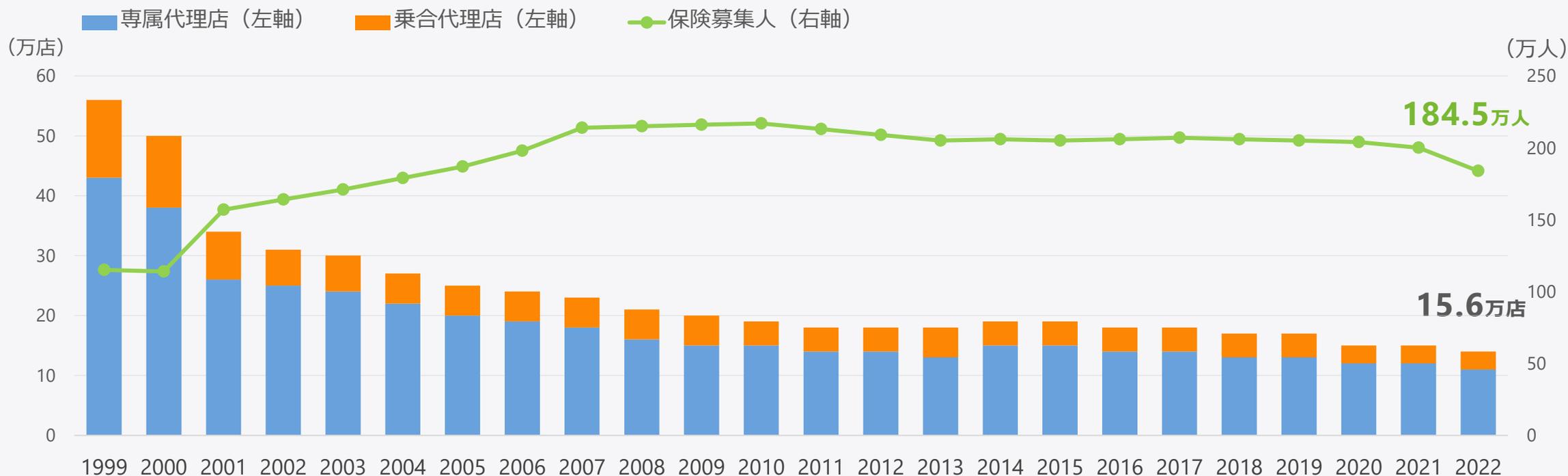


出所：生命保険協会 2023年版生命保険の動向を基に当社作成

# 年々減少し続ける損害保険代理店数

損害保険代理店数は年々減少しています。ところが、保険募集人の人数は横ばいで推移しており、「保険代理店の大型化が進んでいる」と言われています。

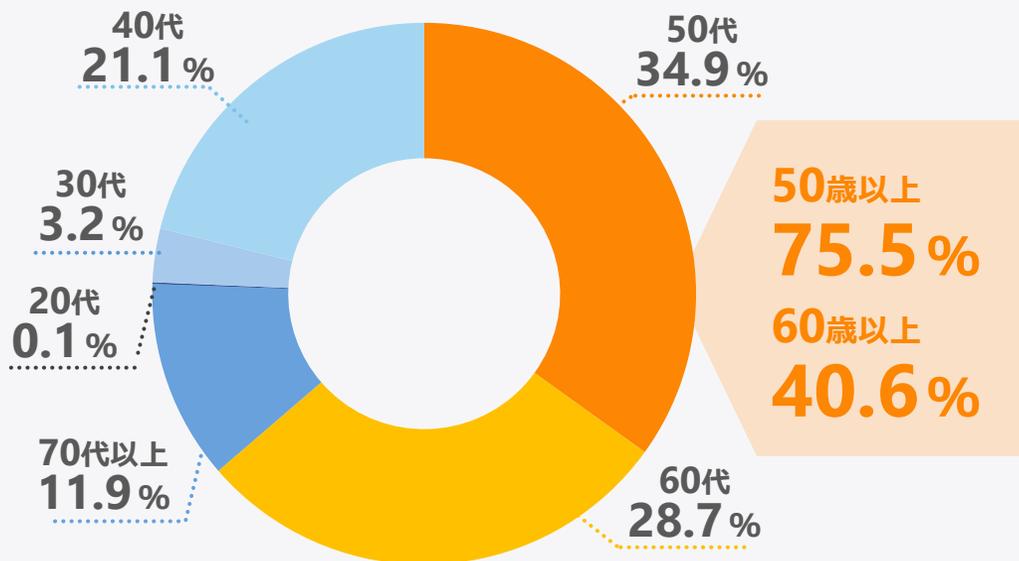
## 損害保険代理店数・保険募集人の人数の推移



出所：損害保険協会 代理店統計を基に当社作成  
※専属代理店：保険会社1社のみと代理店委託契約を締結して、当該保険会社の商品のみを販売する代理店  
※乗合代理店：複数の保険会社と代理店委託契約を締結して、複数の保険会社の商品を取り扱う代理店

損害保険代理店業界における、保険代理店事業主の高齢化も事業承継ニーズを高める要因の一つです。保険代理店として求められる業務品質レベルが高まる中、代理店の高齢化は深刻な課題であります。

## 損害保険代理店における代表者(店主)の年齢構成



出所：代協正会員実態調査(2022.3) 日本損害保険代理業協会 回答7,115社/正会員11,167社

## 保険代理店が減少している主な理由

- 保険業法に基づく体制整備ができない
- 後継者がいない
- IT化についていけない
- 社会環境の変化への対応ができない

等

損害保険代理店業界は現在再編の流れの中にあり、今後も続いていくと予想されます。自動車ディーラーや不動産業者等、兼業代理店の事業承継及び提携を進めることで、さらなる事業規模の拡大を図ります。

### これまでの提携・買収先

保険代理店業を主とする

**専業代理店**

約**3.5兆円** (※)

(損害保険代理店取扱保険料)

### これからの重点提携・買収先

他の事業と併せて保険販売を行う

**兼業代理店**

約**5.5兆円** (※)

(損害保険代理店取扱保険料)

出所：損害保険協会 種目別統計表（2022年4月～2023年3月）、専業・副業別、法人・個人別、専業・乗合別 代理店数、取扱保険料及び募集従事者数の推移（2022年度末）

※取扱保険料は、「種目別統計表（2022年4月～2023年3月）」の「正味収入保険料」の当年度数値合計に、

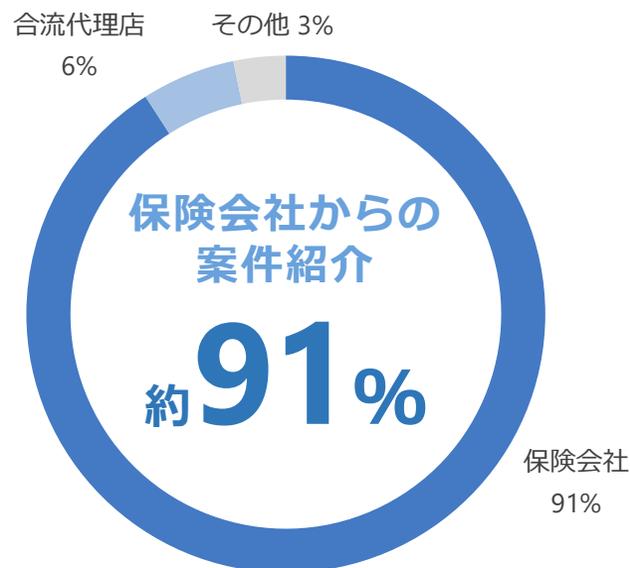
「専業・副業別、法人・個人別、専属・乗合別 代理店数、取扱保険料及び募集従事者数の推移（2022年度末）」の専業・副業の割合を乗じて、当社計算

保険会社からの評価が、当社への代理店合流数の増加につながっています。引き続き、保険会社との更なる関係強化を図りながら、マーケット拡大に向けたM&A及び事業承継の推進に取り組みます。

## 代理店合流の案件流入経路

### これまでの流入経路

### 今後の取組み



2021/12期-2023/12期の合計



2025年7月をめどに持株会社に移行するための検討を開始いたしました。  
機動的かつ戦略的にM&A及び事業承継を行い、持続的成長と企業価値向上を実現できる企業体制を目指します。

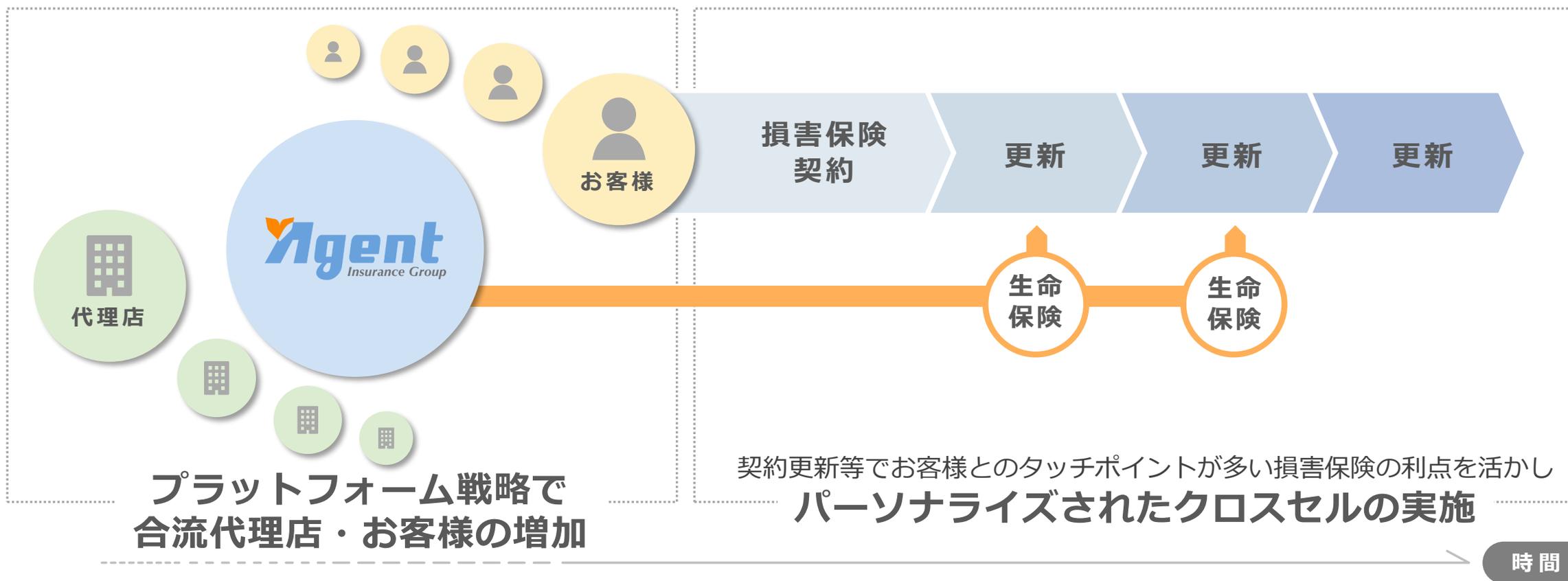
## 現在の体制



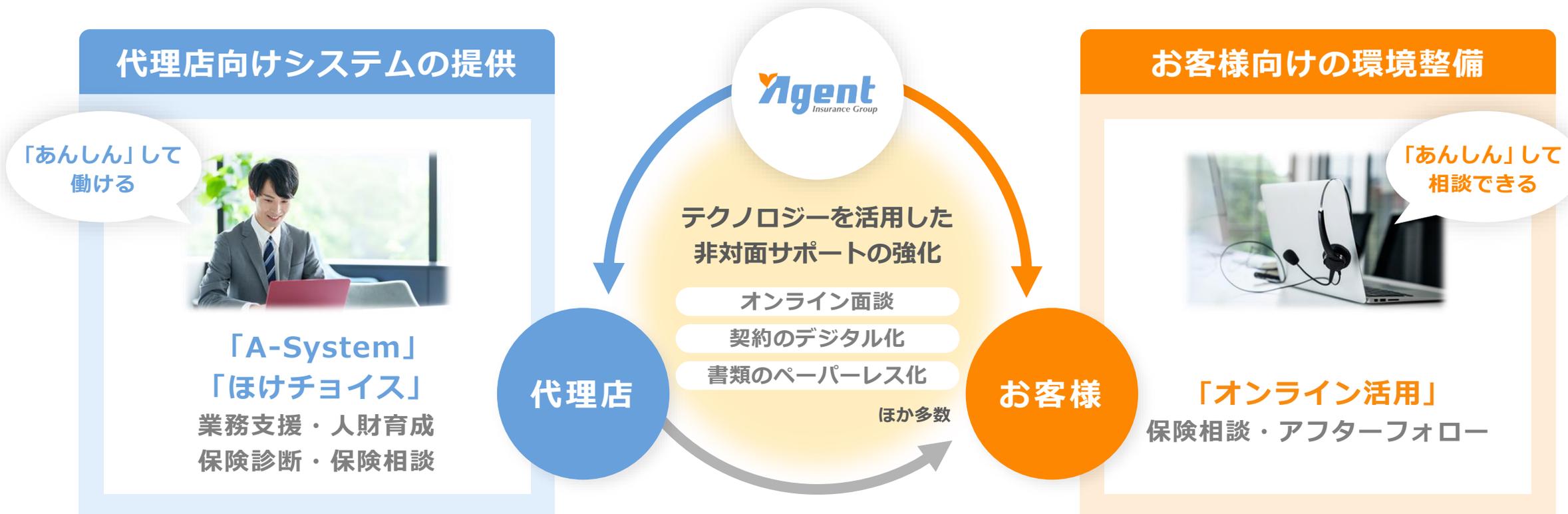
## 今後の体制（ホールディングス化）



保険代理店支援プラットフォームを通じてマーケットを拡大していくことで、継続的にお客様も増加しております。損害保険中心のストック型ビジネスを基盤に、生命保険のクロスセルを行うことで事業規模を拡大してまいります。



デジタルを活用した募集・契約管理等、非対面における代理店向け業務支援を加速させます。  
その結果、デジタルと対面サポートの融合により、お客様に対してより良いサービス提供を実現できます。



デジタルを活用したお客様接点の拡充を図り、お客様から求められる商品やサービスをご提供できるように支援するだけでなく、体制整備・コンプライアンスの推進に向けてもデジタルで支援します。

乗合保険代理店向けにカスタマイズされた、国内屈指の顧客管理システムを開発しています。顧客情報を全て集約し、効率的なデータベースマーケティングを実現します。



オンライン上で最適な保険を診断できるアプリ「ほけチョイス」のサービスを提供しています。2023年1月から提供を開始し、利便性を高めるため、随時バージョンアップに取り組んでいます。

将来的には…

「証券診断」から「契約手続き」まで

スマホひとつで  
完結できるアプリ  
を目指しています

✔ お客様の利便性向上

✔ 従業員の生産性向上



設問に回答していくだけで  
簡単に**保険診断**が可能!



◇ 「ほけチョイス」開発会社 ◇

株式会社WDC

千葉県船橋市本町5-2-1-3階  
代表取締役社長：上石泰義  
資本金：469,699,315円

事業内容：

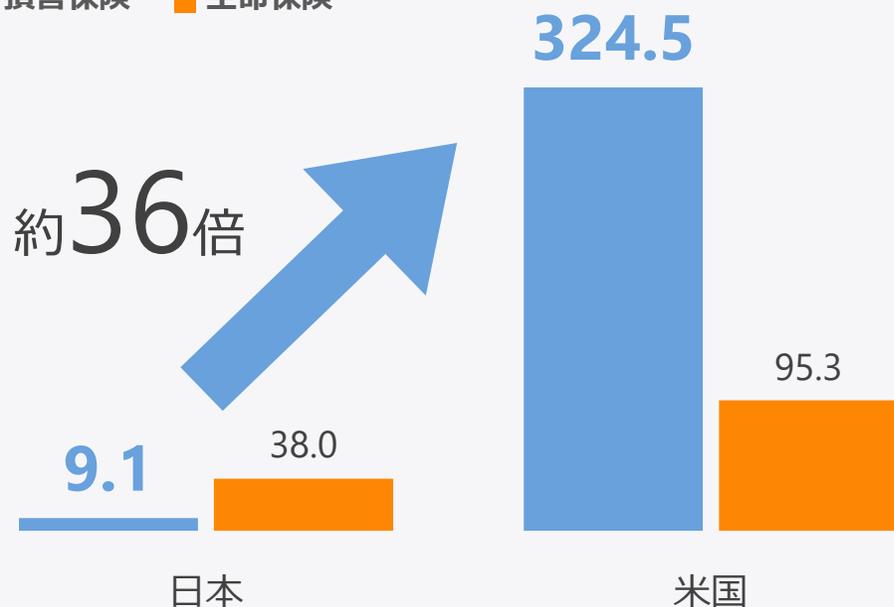
- 生命保険募集に関する業務並びに損害保険及び少額短期保険の代理業
- IT(情報技術)事業の開発、提供及び管理

米国は日本国内の30倍を超える損害保険市場規模を有しており、当社にとって魅力的なマーケットです。  
一方で、世界最大の保険マーケットを有する米国においても、保険ブローカーの高齢化及び後継者不足は課題です。

### 米国における保険市場規模（保険料収入ベース）

(兆円)

■ 損害保険 ■ 生命保険



出所：  
日本 損害保険協会 2022年度種目別統計表、生命保険協会 2021年4月～2022年3月末日損益計算書を基に当社作成  
米国 Swiss Re sigma3/2023（2022年度）を基に当社作成  
1USD=141.83円（MUFG TTM 2023/12/29）

### 日米の保険料収入とGDP比

	GDP	GDPにおける損害保険割合	GDPにおける生命保険割合
日本	600.2 兆円	1.5%	6.3%
米国	3,608.1 兆円	9.0%	2.6%

出所：  
WORLD BANK GROUP GDP growthを基に当社作成（2023年度）  
1USD=141.83円（MUFG TTM 2023/12/29）

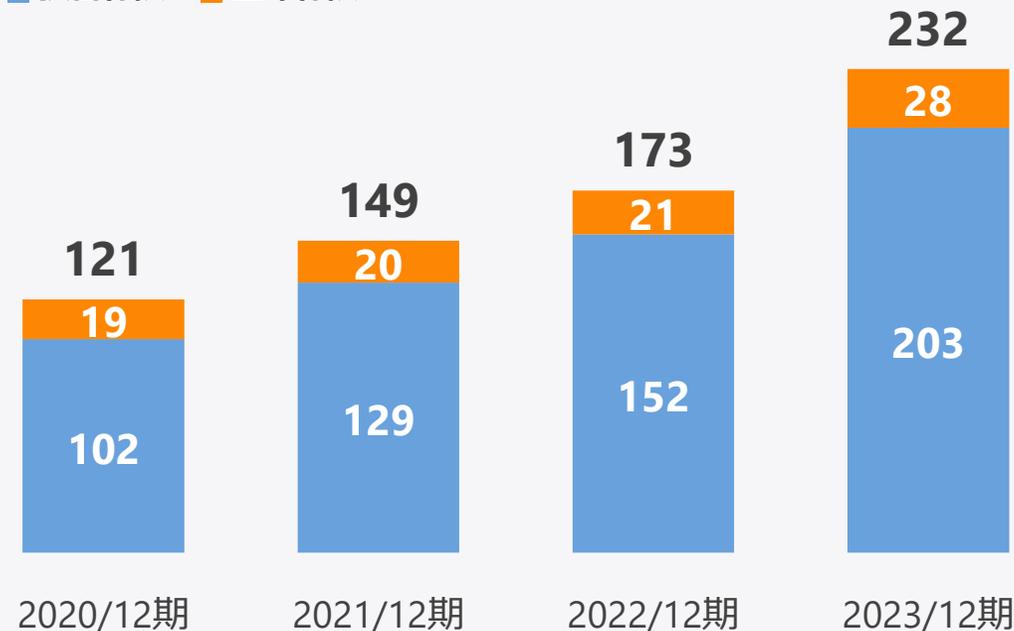
日本国内にて確立している保険代理店支援プラットフォームのノウハウを、米国で展開しています。州をまたぐビジネスを展開するお客様のニーズに対応し、事業拡大を推進しています。



### 海外営業収益推移 (損害保険・生命保険別)

(百万円)

■ 損害保険 ■ 生命保険



# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 2024年12月期 第1四半期決算概要
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 Appendix

営業収益

当社独自の顧客管理基幹システム「A-System」の機能拡充

保険代理店支援プラットフォームの拡大

## 独立系保険代理店の トップランナー

- トップセールスに依存しない、平準化された営業体制の構築
- 損害保険を中心に販売を行う、安定的な収益基盤
- 保険代理店の事業承継ニーズの受け皿としてのプラットフォーム構築
- 保険代理店としての保険会社からの高い評価

海外市場での展開

## 世界に打ち出す メイドインジャパンのクオリティ

- 日本の独立系保険代理店の中で、いち早く米国市場へ進出
- 米国内で38州において事業ライセンスを取得し、順次米国全土へ拡大
- 日本で培ったきめ細やかなサービスを武器に米国で展開

保険プラスαを提供する

## ハイブリッド アドバイザー

- 販売チャネルの多様化を図り、お客様の課題解決力の向上
- 蓄積されたデータの活用による隣接業界への挑戦
- DX、AIを活用したさらなるマーケットの開拓を実現
- ファイナンシャル・ジャパン株式会社の既存事業である金融商品仲介業を強化推進

新規事業

海外事業

国内事業

現在

時間

お客様が「あんしん」できる社会の実現のために、持続可能な社会づくりに貢献することを目指しています。  
「事業承継×DX」で、雇用促進・地方創生、「あんしん」「あんぜん」な労働環境の促進等、様々な取組みを進めております。



## 地方における雇用創出

保険代理店支援プラットフォーム×DXを通じた  
雇用促進と地方創生

## サステナブルなビジネスモデル

全国の事業承継が必要な保険代理店が当社に合流  
損害保険中心のストック型ビジネス

## 安全・公正な募集活動

コンプライアンスの徹底と  
コーポレートガバナンスの強化

## DXの推進

顧客管理システム「A-System」の開発  
保険診断アプリ「ほけチョイス」の開発  
オンライン面談・オンライン営業の推進

## ダイバーシティ推進・働き方改革

シニア世代や女性の活躍推進

## 人を育てる環境づくり

あしなが育英会への寄付  
放課後NPOアフタースクールへの寄付  
保険コンサルティングを通じた  
金融リテラシーの向上支援

## 平和を目指す活動支援

日本ユニセフ協会への寄付  
日本盲導犬協会への寄付  
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへの寄付

## 環境保全活動

エコドライブ運動、エコキャップ回収運動  
ピースワンコ・ジャパンへの寄付  
その他環境保全団体への寄付

# Index

目次

- 01 会社概要
- 02 2024年12月期 第1四半期決算概要
- 03 トピックス・2024年12月期 業績見通し
- 04 今後の成長戦略
- 05 中長期成長イメージ
- 06 **Appendix**

## 会社名

株式会社エージェント・インシュアランス・グループ（英語名：Agent Insurance Group, Inc.）

## 事業セグメント

国内事業・海外事業

## 資本金

3億3,636万4,800円

## 役員構成

代表取締役社長 一戸 敏	取締役 監査等委員 長島 芳明（社外）
取締役会長 唐津 敏徳	取締役 監査等委員 橋内 進（社外）
取締役 栗原 喜子（社外）	取締役 監査等委員 二木 洋美（社外）
取締役 渡邊 徳人（社外）	

## 代表者

代表取締役社長 一戸 敏

## 設立

2001年6月

## 所在地

東京都新宿区市谷本村町3-29 FORECAST市ヶ谷7階

## 拠点

国内73拠点、海外4拠点（連結ベース・2024年5月15日現在）

## 従業員数

1,373名（連結ベース・2024年4月1日現在）

- ▶ 株式会社エージェント・インシュアランス・グループ 499名
  - 取締役・執行役員 14（監査等委員含）
  - 正社員 192（嘱託・パート・派遣含）
  - パートナー社員 293
  - ※他 勤務型代理店 60（総数には含まない）
- ▶ ファイナンシャル・ジャパン株式会社 853（パート・派遣・契約含）
- ▶ 株式会社保険ショップエージェント 6（出向者除く）
- ▶ Agent America, Inc. 15（出向者除く）
- ※他 External Producer 1（総数には含まない）

## 営業収益・経常利益

3,547百万円・154百万円（2023年12月期 連結）

## 連結子会社

ファイナンシャル・ジャパン株式会社  
 株式会社保険ショップエージェント  
 Agent America, Inc.

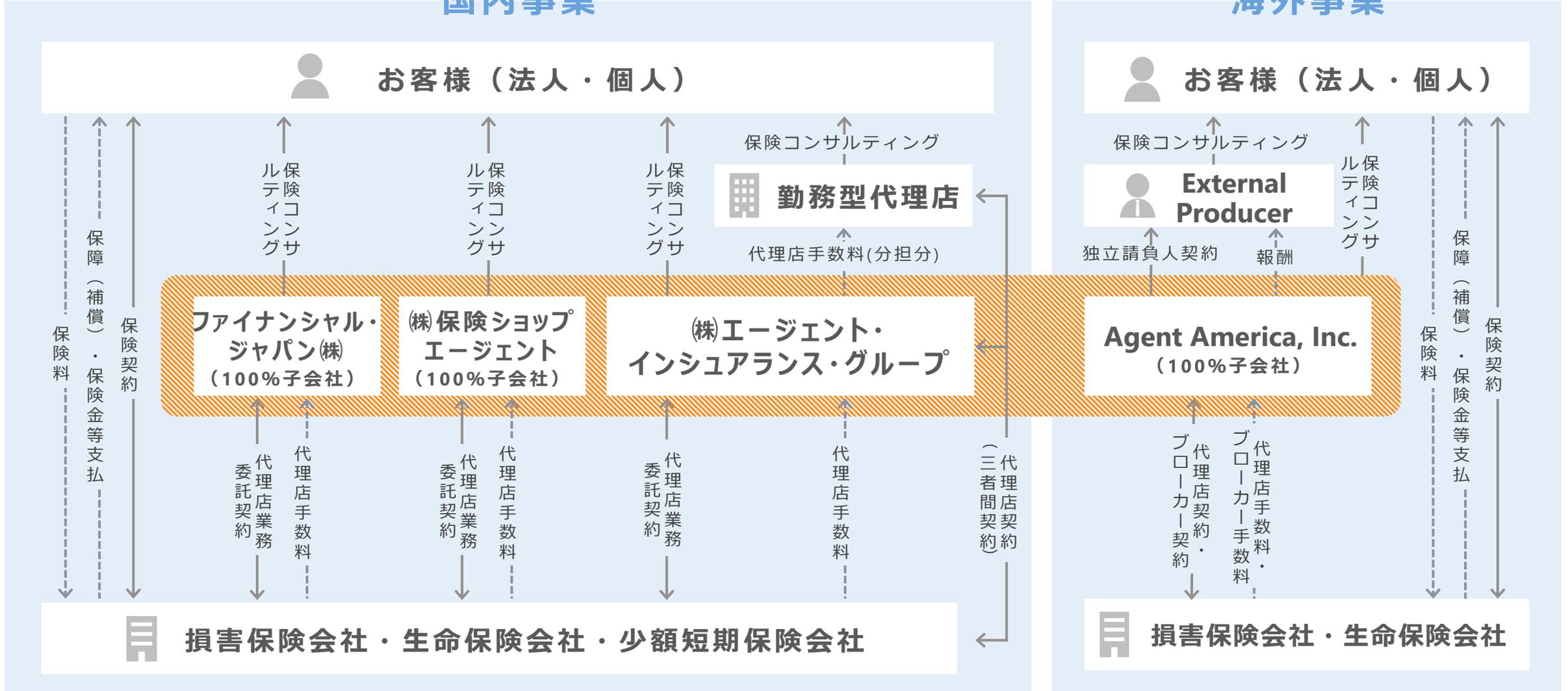
	営業収益推移（億円）※	拠点新設・統合	トピックス
2001			株式会社サンインシュアランスデザインを設立
2002	0.2	札幌支店を新設	
2003	0.4		
2004	0.5		株式会社エーエージェントに商号を変更
2005	0.9		
2006	1.3		
2007	1.6		
2008	2.4	神奈川支店を新設	
2009	3.6		
2010	3.7	仙台支店を新設	
2011	4.3		
2012	5.0		
2013	5.4		
2014	6.5		
2015	7.0	別府支店、鹿児島支店を新設	ロサンゼルス保険ブローカー「Shinseiki Insurance Group, Inc.」の全株式を取得
2016	10.5	神奈川北支店、大分支店を新設	
2017	12.6		
2018	15.1	東京支店、川崎支店、横須賀支店、宮城北支店、中津支店を新設	住友生命保険相互会社と資本提携し、同社の持分法適用関連会社となる
2019	17.1	春日部支店、鹿児島南支店を新設 横須賀支店を神奈川支店へ統合	株式会社保険ショップエーエージェント（連結子会社）を新規設立
2020	24.3	東京西支店、茨城支店、別大支店（別府支店・大分支店を統合）を新設、東京支店を本社営業部に統合	東京海上日動火災保険株式会社と資本提携
2021	29.1	大阪支店、東京北支店、別大支店 日田支社を新設	株式会社エーエージェント・インシュアランス・グループに商号変更
2022	32.7	本社営業部 東京東支社、仙台支店 福島支社、仙台支店 仙台南支社を新設	名古屋証券取引所メイン市場へ上場
2023	35.5	別大支店 愛媛支社、愛知支店を新設 仙台支店 仙台南支社を仙台支店へ統合	
2024	77.6	米国Atlanta Office新設	ファイナンシャル・ジャパン株式会社の全株式を取得（子会社化） 少額短期保険の取扱開始

※2012年までは全体の営業収益を、2013年からは保険事業の営業収益を記載 ※2024年は計画値

←-----> 資金の流れ    <-----> 取引の流れ

## 国内事業

## 海外事業



※2024年5月15日現在

## 国内73拠点

※2024年5月15日現在

### 株式会社エージェント・インシュアランス・グループ

- |       |        |       |             |
|-------|--------|-------|-------------|
| 東京本社  | 東京東支店  | 神奈川支店 | 本社営業部 春日部支社 |
| 札幌支店  | 東京北支店  | 愛知支店  | 仙台支店 福島支社   |
| 宮城北支店 | 東京西支店  | 大阪支店  | 別大支店 愛媛支社   |
| 仙台支店  | 川崎支店   | 別大支店  | 別大支店 中津支社   |
| 茨城支店  | 神奈川北支店 | 鹿児島支店 | 別大支店 日田支社   |

### 株式会社保険ショップエージェント

子会社

- 熊本本社

### ファイナンシャル・ジャパン株式会社

子会社

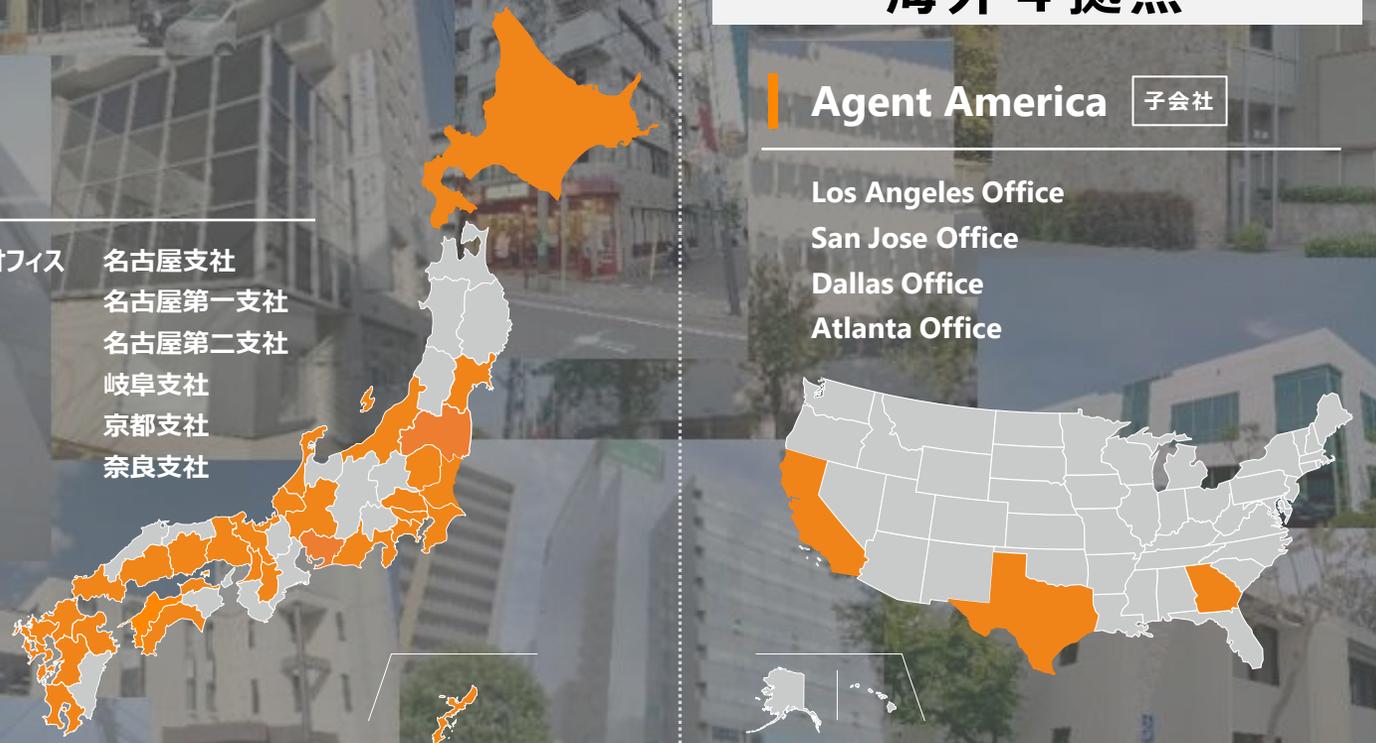
- |             |               |         |             |         |
|-------------|---------------|---------|-------------|---------|
| 東京本社        | 仙台支社          | 神田支社    | 新潟サテライトオフィス | 名古屋支社   |
| 札幌支社        | 首都圏第一支社       | 東京第一支社  | 金沢支社        | 名古屋第一支社 |
| 札幌第一支社      | 首都圏第二支社       | 横浜支社    | 福井支社        | 名古屋第二支社 |
| 札幌第二支社      | 宇都宮支社         | 横浜馬車道支社 | 静岡支社        | 岐阜支社    |
| 旭川サテライトオフィス | 船橋支社          | 長岡支社    | 浜松支社        | 京都支社    |
|             |               |         |             | 奈良支社    |
| 近畿第一支社      | 神戸支社          | 広島支社    | 福岡支社        |         |
| 関西支社        | 姫路支社          | 山口支社    | 佐賀支社        |         |
| 大阪支社        | 岡山支社          | 高松支社    | 長崎支社        |         |
| 大阪北支社       | 岡山第一サテライトオフィス | 新居浜支社   | 大分支社        |         |
| 梅田支社        | 倉敷サテライトオフィス   | 松山支社    | 熊本支社        |         |
| 芦屋支社        | 福山支社          | 高知支社    | 鹿児島支社       |         |
|             |               | 四万十支社   | 沖縄支社        |         |

## 海外4拠点

### Agent America

子会社

- Los Angeles Office
- San Jose Office
- Dallas Office
- Atlanta Office

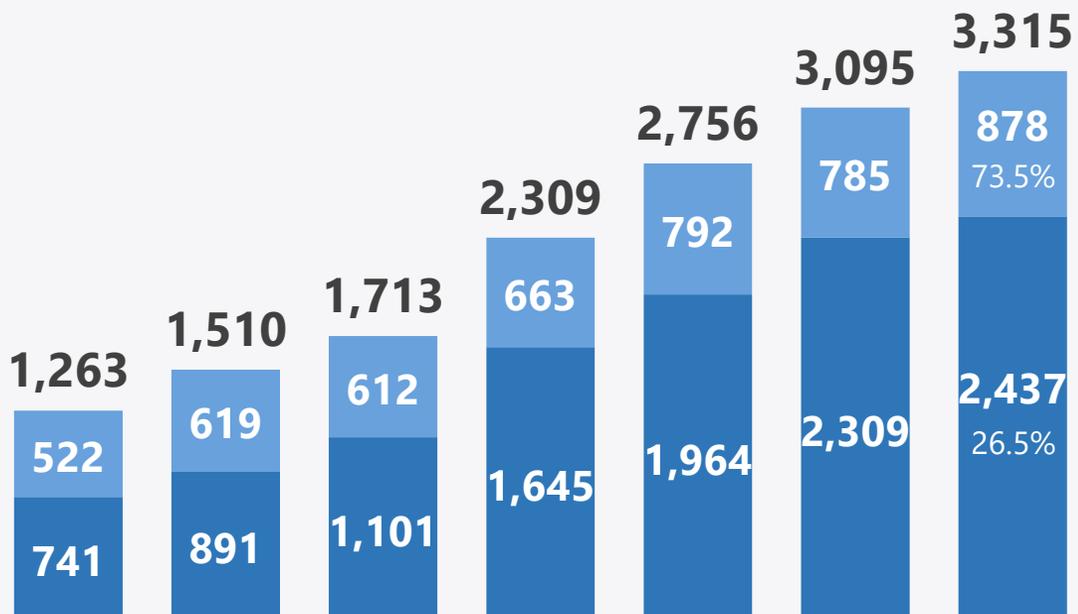


損害保険（ストック型ビジネス）を主軸とし、生命保険（フロー型ビジネス）にて業績の底上げを図っています。損害保険の更新を接点とした営業スタイルで、ローコストオペレーション体制を実現しています。

## 国内営業収益推移（損害保険・生命保険別）

（百万円）

■ 損害保険 ■ 生命保険



2017/12期 2018/12期 2019/12期 2020/12期 2021/12期 2022/12期 2023/12期

## 生命保険

いわゆる**フロー型ビジネス**。一般的に、契約を獲得した年に初年度手数料収入が得られ、次年度以降、初年度手数料よりは低い料率で一定期間（※）にわたり継続手数料が得られます。したがって、新規販売状況により得られる手数料収入が上下します。

（※）一般的に4～10年。期間は保険会社によって異なります。

## 損害保険

いわゆる**サブスクリプションライクなビジネス**（≒ストック型ビジネス）。1年ごとに更新する年間契約が多く、高い更新率（※）を維持すれば、翌年以降も継続して同水準の保険料に対する手数料収入が安定的に得られます。

（※）2023年度当社平均更新率は、94.1%です。  
（東京海上日動社自動車保険の更新率）

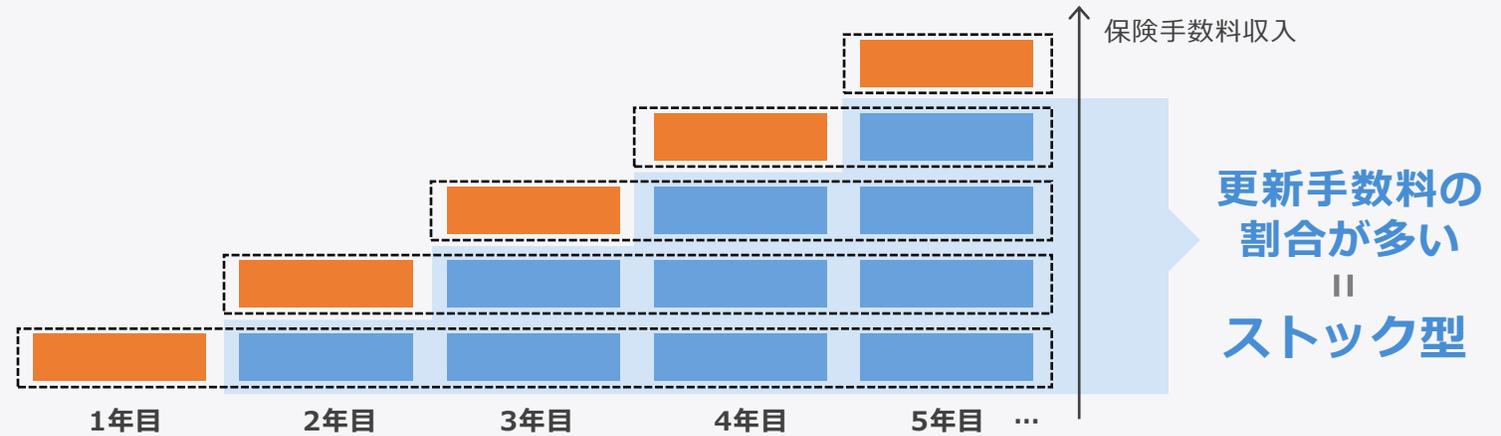
一般的な損害保険と生命保険の収益モデルのイメージは以下のとおりです。

## 損害保険

初年度手数料   更新手数料   各契約

※更新手数料は初年度手数料と同額で、支払期間は契約が更新される想定

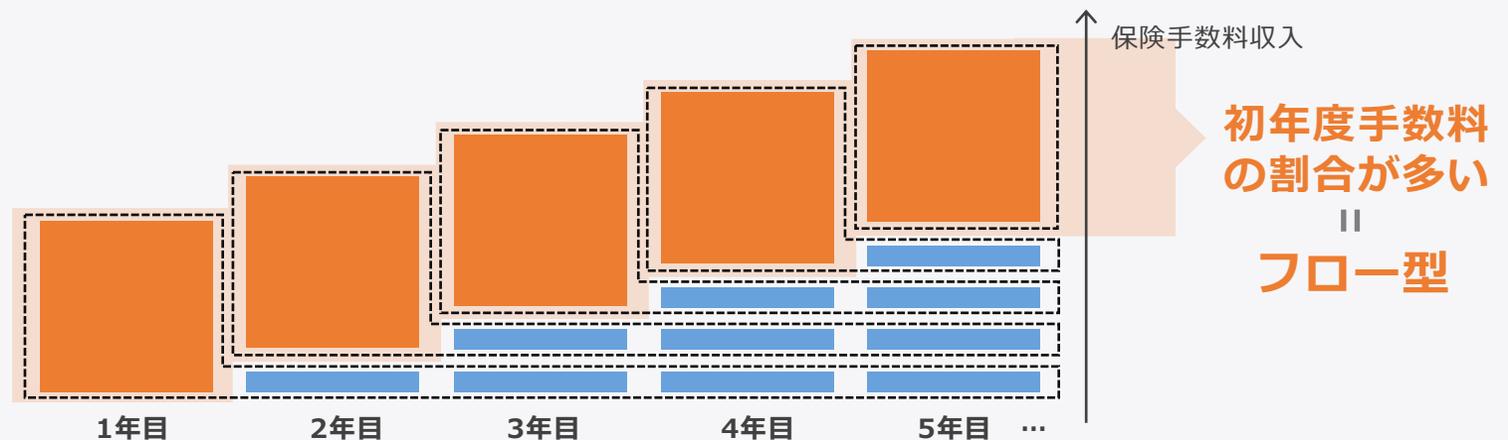
▶更新率 **94.1%**  
(2023年度東京海上日動社自動車保険の更新率)



## 生命保険

初年度手数料   継続手数料   各契約

※継続手数料の支払い期間は4-10年  
(保険会社により異なります)



# 保険代理店支援プラットフォームを通じたマーケット拡大

保険代理店支援プラットフォームは、代理店の合流と彼らへの営業支援の2段階でマーケット拡大を実現します。また、当社コア社員による新規マーケット開拓を通じて、スピード感のある成長を実現しています。



## 損害保険

あいおいニッセイ同和損害保険(株)  
AIG損害保険(株)  
SBI損害保険(株)  
キャピタル損害保険(株)  
スター・インデムティ・アントム・ライアビリティ・カンパニー  
セコム損害保険(株)  
ソニー損害保険(株)  
損害保険ジャパン(株)  
Chubb損害保険(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
日新火災海上保険(株)  
ニューインディア保険会社  
現代海上火災保険(株)  
三井住友海上火災保険(株)  
楽天損害保険(株)

計15社

## 生命保険

アクサ生命保険(株)  
朝日生命保険相互会社  
アフラック生命保険(株)  
イオン・アリアンツ生命保険(株)  
SBI生命保険(株)  
FWD生命保険(株)  
エヌエヌ生命保険(株)  
オリックス生命保険(株)  
ジブラルタ生命保険(株)  
住友生命保険相互会社  
ソニー生命保険(株)  
S O M P O ひまわり生命保険(株)  
大樹生命保険(株)  
第一生命保険(株)  
第一フロンティア生命保険(株)  
大同生命保険(株)  
T&Dフィナンシャル生命保険(株)  
チューリッヒ生命保険(株)  
東京海上日動あんしん生命保険(株)  
なないろ生命保険(株)  
ニッセイ・ウェルス生命保険(株)  
日本生命保険相互会社  
ネオファースト生命保険(株)  
はなさく生命保険(株)  
プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険(株)  
マニユライフ生命保険(株)  
三井住友海上あいおい生命保険(株)  
みどり生命保険(株)  
明治安田生命保険相互会社  
メットライフ生命保険(株)  
メディケア生命保険(株)  
楽天生命保険(株)

計32社

## 少額短期保険

(株)アシロ少額短期保険  
ぜんち共済(株)

計2社

## 【免責事項】

本資料の作成にあたり、株式会社エージェント・インシュアランス・グループ（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。

発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束及び保証するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きな差異が発生する可能性があります。